

7月の果実の見通し

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
すいか類		12,084	107	14,066	217	81	169	2,416	20.0	千葉、山形、長野、新潟、鳥取産が中心の入荷となる。千葉、鳥取は生育、着果とも順調で、7月上旬がピークで中旬にはほぼ終了の見込み。下旬には、山形、長野がピークを迎える。新潟は葉たばこからの転作もあり作付面積は増加傾向。全体の入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回るものの平年をやや上回る見込み。
もも		5,635	99	6,521	529	93	462	1	0.0	山梨産中心の入荷で、全体の約9割を占める。山梨は開花は遅れたものの、その後の好天で生育は回復しており、6月下旬から早生品種が入荷開始した。主力品種の白鳳は7月10日過ぎから入荷し、中旬にピークとなる。果実肥大も順調。全体の入荷量は前年並み、価格は前年をかなり下回る見込み。
メロン類		3,643	95	4,840	427	88	356	1,052	28.9	茨城、千葉、山形産が中心となり全体の8割を占める。品種はアールスメロン、貴味、アンデス、クインシーなど。茨城産アンデスは7月第1週でほぼ終了。千葉は平年より1週間程度遅れており、入荷のピークは上～中旬にかけてとなる。山形産アンデスのハウス栽培は上旬がピークとなり、果実肥大は良好。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回るものの平年並みとなる見込み。
おうとう		1,036	70	729	1,043	135	1,275	994	95.9	山形産が全体の約9割を占める。山形は平年並みの生育ペースに戻っており、佐藤錦は6月末にはほぼ終了となり、紅秀峰が6月末から入荷開始となる。秋田産は着果不良により入荷量は少なくなる。全体の入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。
すもも		1,167	105	1,206	464	99	441	158	13.6	山梨、山形産が全体の8割を占める。山梨は5日程度の生育遅れだが作柄は概ね順調、大石早生は7月上旬がピーク。山形の早生は7月上旬からの入荷を予定している。両産地とも、開花から出荷までの日数が短くなっており、やや小玉傾向が予想される。全体の入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並みの見込み。
ぶどう (デラウェア)		663	95	974	888	103	749	323	48.8	山形、山梨産中心の入荷となる。山梨のハウス栽培は7月上中旬頃に入荷のピークとなる。山形産のハウス栽培は前年より2～3日遅れており、下旬にピークとなる。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。